

高耐候性水性フッ素樹脂塗料仕上

# ボンフロン水性GT改装工法



BONNFロン



# 建物が蘇る!!

## ボンフロン水性GT オール水性改装工法

日本には四季があり、様々な環境が発生します。また、オゾン層破壊による紫外線量の増大、地球温暖化による高温多湿、ゲリラ豪雨などにより、建物の周辺環境は過酷な環境に変化し、進行している状況です。

建物外壁の大敵は、「紫外線」です。

この「紫外線」から長期間外壁を守るのが水性フッ素樹脂塗料「ボンフロン水性GT-SR」です。「ボンフロン水性GT-SR」の塗膜は親水性です。降雨によりセルフクリーニング機能を発揮、いつまでも外壁を綺麗に保ちます。

また、改修時期を迎えた外壁は、ひび割れ、ピンホール、汚れ、くすみが発生しています。

この劣化した外壁下地を蘇らせるのが、微弾性フィラー(下塗)「ボンHBサーフェーサーR」です。「ボンフロン水性GT改装工法」は、低汚染型水性フッ素樹脂塗料と微弾性フィラーの特性を活かした下塗、中塗、上塗のシンプルな工程であらゆる建物を蘇らせる改装工法です。

### フッ素樹脂塗料仕上げのオール水性改装工法



旧塗膜

下塗 中塗

上塗

### ヘアークラックに最適！

老朽化した壁面に耐久性を備えた下地塗膜をつくりあげ、リフレッシュします。



沖縄県立教育センター  
「ボンフロンGT WR100-HBSR工法」

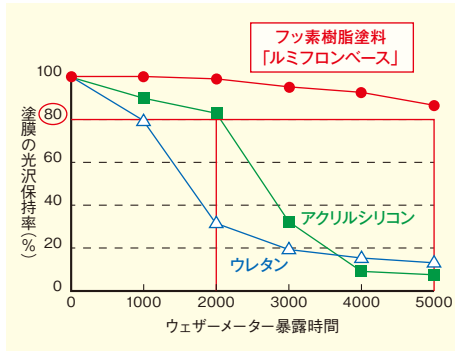


AGC旭硝子(株)市原住宅  
「ボンフロンGT WR100-SR工法」

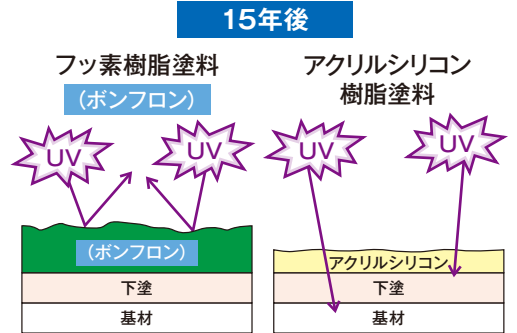
## ボンフロン水性GTの耐候性

### 塗料（樹脂）の耐候性の違い

塗料に使われている『樹脂』によって、塗料の性能が変わってきます。右表で縦軸は塗膜の光沢保持率、横軸は促進耐候性試験をかけた時間を表しています。一般的に塗料の劣化は、艶が無くなるのと正比例し、光沢保持率が80%を下回ると塗膜が劣化し、基材の保護機能が低下します。このタイミングが、塗替えの時期といわれています。



### フッ素樹脂塗料とアクリルシリコン樹脂塗料の比較



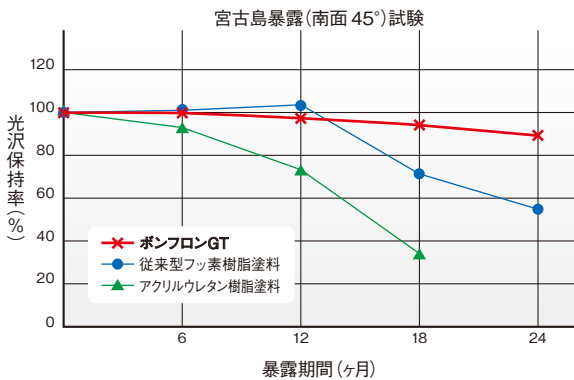
フッ素樹脂塗料（ボンフロン）は、紫外線による劣化に強いため、他樹脂と比べると劣化が少なく、建物を長期間保護することが可能です。

## ボンフロンGTの性能

### 宮古島暴露試験

(南面45°におけるデータ)

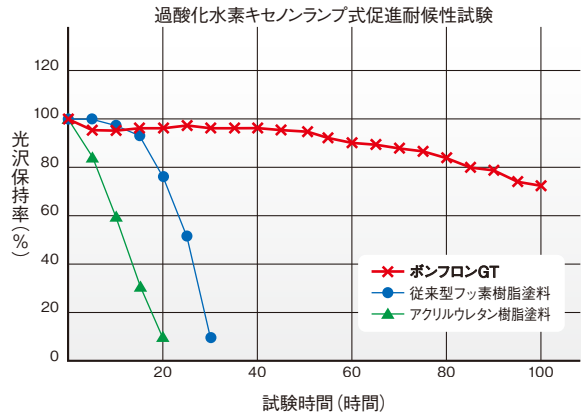
宮古島は、暴露環境としては非常に苛酷な場所です。アクリルウレタン樹脂塗料では暴露1年を過ぎると著しい光沢の低下が観測されます。この環境下で、「ボンフロンGT」は暴露2年を経過しても90%近い光沢を保持。「高温・多湿・高紫外線」の厳しい環境に最適な塗料であることを証明しています。



### 光触媒劣化促進耐候性試験

(過酸化水素水を使用したキセノンランプによる試験)

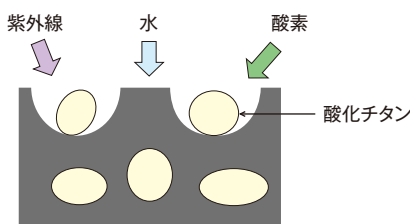
「ボンフロンGT」は、下記のデータの様に光触媒劣化促進耐候性試験においても従来型フッ素樹脂塗料と比較して格段の耐久性の向上が見られます。このことから、厳しい環境下においても優れた耐久性を発揮する事ができるといえます。



#### 通常の塗料

#### 光触媒反応による劣化

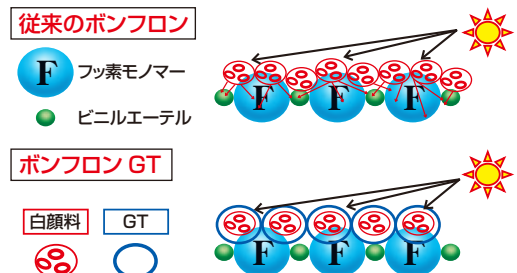
酸化チタンの光触媒作用により、酸化チタン顔料の周辺部が中心に劣化する概念図



通常の塗料は白顔料に含まれる酸化チタンが光触媒反応を起こし、塗膜を破壊してしまいます。

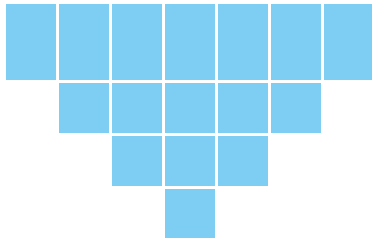
#### ボンフロンGT

『ボンフロンGT』構造イメージ図



ボンフロンGTは酸化チタン（白顔料）をコーティングすることによって、厳しい環境下でも光触媒反応を起こりにくくし、塗膜の劣化を抑制します。





## 長期耐久型水性フッ素ダブルコート工法

### ボンフロンGT水性改装工法「GT WR-100SR」塗装仕様

工程	使用材料	希釈率 (%)	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗回数	塗装間隔(23℃)	施工方法	
下地調整と清掃	旧塗膜に脆弱部分のある場合は、サンダー・皮スキ・ケレン棒等を用いて除去し、下地調整材を用いて段差修正及び模様合わせを行って下さい。 高圧洗浄機を用いて、旧塗膜に付着している塵埃・汚れ等を水洗いしながら除去してください。						
1	下塗	ボンHBサーフェーサーR	清水 2~5	0.80~1.20	1	16h以上	砂骨ローラー
			5~8	0.30~0.50			ウールローラー
2	中塗	ボンフロン水性GT(艶消し)	清水 0~5	0.13~0.16	1	4h以上	ローラー
				0.15~0.18			スプレー
3	上塗	ボンフロン水性GT-SR防藻	清水 0~5	0.13~0.16	1	—	ローラー
				0.15~0.18			スプレー
合計				3			

(注) 塗装面が風化したコンクリートやリシン等脆弱な場合はボンカチオンプライマーを塗装してからボンHBサーフェーサーRを塗装して下さい。  
ボンカチオンプライマー 所要量: 0.10~0.15kg/m<sup>2</sup> 工程間隔: 23℃ 2時間

## 水性フッ素改装工法

### ボンフロンGT水性改装工法「GT WR-100HBSR」塗装仕様

工程	使用材料	希釈率 (%)	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗回数	塗装間隔(23℃)	施工方法	
下地調整と清掃	旧塗膜に脆弱部分のある場合は、サンダー・皮スキ・ケレン棒等を用いて除去し、下地調整材を用いて段差修正及び模様合わせを行って下さい。 高圧洗浄機を用いて、旧塗膜に付着している塵埃・汚れ等を水洗いしながら除去してください。						
1	下塗	ボンHBサーフェーサーR	清水 2~5	0.80~1.20	1	16h以上	砂骨ローラー
			5~8	0.30~0.50			ウールローラー
2	中塗	ボンフロン水性W#1500中塗	清水 0~15	0.13~0.16	1	4h以上	ローラー
				0.15~0.18			スプレー
3	上塗	ボンフロン水性GT-SR防藻	清水 0~5	0.13~0.16	1	—	ローラー
				0.15~0.18			スプレー
合計				3			

(注) 塗装面が風化したコンクリートやリシン等脆弱な場合はボンカチオンプライマーを塗装してからボンHBサーフェーサーRを塗装して下さい。  
ボンカチオンプライマー 所要量: 0.10~0.15kg/m<sup>2</sup> 工程間隔: 23℃ 2時間

工程短縮型工法

ボンフロンGT水性改装工法「GT WR-100SCSR」塗装仕様

工程	使用材料	希 釈 率 (%)	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗 回 数	塗装間隔(23℃)	施 工 方 法	
下地調整と清掃	旧塗膜に脆弱部分のある場合は、サンダー・皮スキ・ケレン棒等を用いて除去し、下地調整材を用いて段差修正及び模様合わせを行って下さい。 高圧洗浄機を用いて、旧塗膜に付着している塵埃・汚れ等を水洗いしながら除去してください。						
1	下 塗	ボンHBサーフェーサーR (W)	清水 0~3	0.30~0.50	1	16h以上	ウールローラー
				0.80~1.20			砂骨ローラー
2	上 塗	ボンフロン水性GT-SC低汚染防藻	0	0.18~0.23	1	—	ローラー
合 計				2			

(注) 塗装面が風化したコンクリートやリシン等脆弱な場合はボンカチオンプライマーを塗装してからボンHBサーフェーサーR (W) を塗装して下さい。

ボンカチオンプライマー 所要量：0.10~0.15kg/m<sup>2</sup> 工程間隔：23℃ 2時間

(注) ボンフロン水性GT-SC低汚染防藻の施工方法はローラー塗装のみで、たて・よこ十字塗りを一回塗りとし、規定の所要量を厳守して下さい。

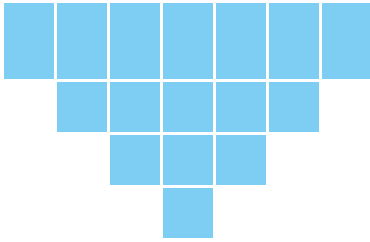
既存フッ素樹脂塗料塗替え工法 (ルミフロン系塗膜)

ボンフロンGT水性改装工法「ボンフロンGT微弾性-SR」塗装仕様

工程	使用材料	希 釈 率 (%)	標準所要量 (kg/m <sup>2</sup> )	塗 回 数	塗装間隔(23℃)	施 工 方 法	
下地調整と清掃	旧塗膜に脆弱部分のある場合は、サンダー・皮スキ・ケレン棒等を用いて除去し、下地調整材を用いて段差修正及び模様合わせを行って下さい。 高圧洗浄機を用いて、旧塗膜に付着している塵埃・汚れ等を水洗いしながら除去してください。						
1	下 塗	ボンHBサーフェーサーR (W)	清水 0~3	0.30~0.50	1	16h以上	ウールローラー
				0.80~1.20			砂骨ローラー
2	中 塗	ボンフロン水性GT (艶消し)	清水 0~5	0.13~0.16	1	4h以上	ローラー
				0.15~0.18			スプレー
3	上 塗	ボンフロン水性GT-SR防藻	清水 0~5	0.13~0.16	1	—	ローラー
				0.15~0.18			スプレー
合 計				3			

(注) 塗装面が風化したコンクリートやリシン等脆弱な場合はボンカチオンプライマーを塗装してからボンHBサーフェーサーR (W) を塗装して下さい。

ボンカチオンプライマー 所要量：0.10~0.15kg/m<sup>2</sup> 工程間隔：23℃ 2時間



## 施工上の一般注意事項

### 1

塗装場所の気温が5℃以下、湿度85%以上の時、又換気が十分でなく結露が考えられる場合は塗装を避けて下さい。

### 2

外部の塗装で降雨、降雪の恐れのある場合及び強風時は塗装を避けて下さい。

### 3

塗料は内容物が均一になるように十分に攪拌して下さい。薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上り不良となりますのでご注意下さい。

### 4

刷毛塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、所要量、表面肌が異なり色相差が出ますので刷毛塗り部は希釈を少なくして塗装して下さい。

### 5

汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合は、使用塗料の控えを必ず取っておき、同一塗料、同一塗装方法で補修塗装をして下さい。

## 改修時の下地ごしらえ

### 1

塵埃等による汚れ、表面付着異物は高圧洗浄（水圧150kg/cm<sup>2</sup>以上）で清掃除去して下さい。固着物はワイヤーブラシ、ケレン棒、サンダーなどを併用して除去して下さい。

### 2

脆弱下地や劣化旧塗膜はワイヤーブラシ、ケレン棒、サンダーなどで除去し、弾性モルタル、ポリマーセメントモルタルで段差修正し、表面は、ローラー、へら、刷毛などを用いて周囲と模様合わせをして下さい。

### 3

下地の欠損、ひび割れ、凹凸など不具合部は、事前にポリマーセメント、エポキシ注入材、シーリング材などで補修して下さい。

● 材料荷姿

	材 料 名	入 目
下 塗	ボンカチオンプライマー	15kg/缶 F☆☆☆☆登録済
	ボンHBサーフェーサーR	16kg/缶 F☆☆☆☆登録済
	ボンHBサーフェーサーR(W)	16kg/缶 F☆☆☆☆登録済
中 塗	ボンフロン水性W# 1500中塗	15kg/缶 4kg/缶 F☆☆☆☆登録済
	ボンフロン水性GT ツヤ消	15kg/缶 4kg/缶 F☆☆☆☆登録済
上 塗	ボンフロン水性GT-SR防藻	15kg/缶 4kg/缶 F☆☆☆☆登録済
	ボンフロン水性GT-SC低汚染防藻	13kg/缶 3.5kg/缶 F☆☆☆☆登録済

## AGCコーテック株式会社

本 社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 2-9 コンフォール安田ビル5F  
塗料事業部 〒101-0054 //  
西日本支店 〒550-0011 大阪府大阪市西区阿波座 2-2-18 いちご西本町ビル11F  
東北支店 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡 2-2-11 仙台KSビル9F  
URL <http://www.agccoat-tech.co.jp>

☎ 03-5217-5100 FAX 03-5217-5105  
☎ 03-5217-5101 FAX 03-5217-5106  
☎ 06-6578-2801 FAX 06-6578-2802  
☎ 022-299-6365 FAX 022-299-6368